

平成 31 年度 第 1 回帯広市緑化審議会専門部会 議事録（概要）

- 1 日 時 平成 31 年 4 月 5 日（金）9：30～11：00
- 2 場 所 帯広市役所 10 階第 6 会議室
- 3 出席委員 坂本委員、高橋委員、橋本委員、松田委員、宮崎委員 5 名
- 4 事務局 和田部長、石塚道路担当調整監、樂山課長、中村公園管理担当課長、小丹枝みどりと花の係長、中村管理係長、國枝整備係長、丹羽主任、下森主任、伊藤主任補、追杉主任補、佐藤係員

5 議事概要

・緑の基本計画の検証と今後の方向性について

事務局 現在の緑の基本計画の目標となっている「緑被率」「緑地率」「市民 1 人当たりの公園面積」「植樹本数」の目標達成状況について説明する。

「緑被率」は、航空写真や衛星画像など上空からの写真を用い、緑の面積の割合を算出するもので、平成 29 年の画像により調査を行った結果、平成 13 年に 23.5%であった緑被率が 29.0%に増加し、平成 35 年の目標であった約 27%を越える結果となった。

「緑地率」は、都市計画区域内における公園緑地や公共施設などの緑のほか、法や条例により担保された緑の面積の割合となるが、新規公園の整備や、道路や公共施設の整備による緑づくり、緑化協議制度などによる民有地緑化などの成果が少なく、平成 35 年の目標約 15%に対し平成 29 年の実績は 11.1%となり、目標に対し、進捗が遅れている状況である。

「市民 1 人当たりの公園面積」は、平成 29 年時点では、実数値が目標値を越えているが、平成 30 年以降は、目標値の上昇に対し、実数値の上昇がゆるやかになっていることから、平成 35 年では実数値が目標値に到達しない見込みとなっている。

「植樹本数」は、計画策定から 20 年間で 30 万本の樹木を植栽する目標となっているが、公共事業の抑制による公共緑化の低迷や、緑化協議制度などによる民有地緑化の成果が少なく、平成 35 年の 30 万本増加の目標に対し、平成 29 年は 11 万 6 千本の実績となっており、目標に対し、進捗が遅れている状況となっている。

次に、次期緑の基本計画の方向性について説明する。

現在の社会状況を鑑みた緑の課題として、人口減少・少子高齢化に伴う税収減などの財政面の制約が生じる中でも、効果的・効率的で持続可能な施策を実施していくこと、公園施設の老朽化や、樹木の老木・巨木化に対応し、適切な維持管理により安全性を確保していくことが挙げられる。また、これまでの帯広市の緑化の取り組みについての事業ごとの課題としては、「緑に関わる団

体の高齢化や担い手の育成」、「基金事業などの財源確保」、「既存施設の老朽化・樹木の成長による危険木化」、「効果的な公園施設の整備」が挙げられる。

これらの課題を解決するためには、新計画の方向性として「みどりの多様な活用」、「量的整備から質的管理への転換」、「市民理解を深めるための取り組み」の3つのコンセプトを提案する。

委員 これから帯広市としては量より質で、質の良いみどりにしていく取り組みを進めていくということか。

事務局 これからは、みどりの量をやみくもに増やすのではなく、今あるみどりを大切にして質の向上を図っていくような方向性としたい。

委員 公園の遊具など、老朽化して使用すると危ない所は、整備していくのか、それとも無くしていくのか。

事務局 地域のニーズに合わせた形で、遊具の更新をしていくのか、それとも散歩して座れるような木陰がつかれるような場所を作るのか、必ずしも公園といえば遊具だけではないというようにしていきたいと考えている。

委員 少子高齢化により、若い時は木などを管理出来るが、高齢になって来ると管理が出来なくなってくる。長い期間を見越した取り組みが必要。

また、担い手の育成確保といった点で、小学校のうちからみどりに関する事を社会教育という形で教育できるような施策も必要ではないかと思う。

部会長 木については、最初の計画の時は、これから増やせばいいので一気に増やしてきたところ、思っていたより育ったりメンテナンスが大変になってしまったりしているので、今後はある意味減らしたりして、質を何とかしないといけない局面にあることは間違いないと思う。

委員 今、日本の全ての業界に言えることとして、人口減少や資本の減少ということが当然あるので、維持という方向性になっていくというのは時代の流れとして仕方がないと思う。

なので、どうやってみどり・公園緑地等を生活の中に入れながら利活用し、豊かに暮らしていくかが重視されるのではないかと思う。

また、帯広の森はかなり緑化に貢献していて、道内の市町村からも、帯広市は緑に力を入れていますねと言われる。

なので、この計画の中で帯広の森や緑化重点地区の効果や貢献について振り返り、そこからどうやって利活用していくかを考えていくのが良い。

部会長 多くの市民の方が目にしているのは帯広の森や市内にある公園の緑であるし、観光客に対する印象としても公園などが重要だと思うので、中心部を含めた一番大事な部分を上手く印象を良くしつつ市民の方々の生活とバッティングしないように維持していくのが大事である。

委員 みどりの管理との関わりで、帯広の森で行っている市民の方達との森づくり活動や、町内会などで周辺の街路樹や緑地の手入れをするような活動など、市民の方が継続的に関わるようなところも評価の軸として入れていけると良い。

部会長 行政に頼るばかりではなく、市民の活動を含めた取り組みがこれからは重要になってくるのは間違いないという感じがする。そういったことが計画の中に入ってくるのは一般的な市民の方から見ても自然な感じであると思う。

部会長 旭川とか札幌は、「町」が観光地として成り立っているように感じるが、帯広は「町」自体にそれほど観光地というものが無い。

緑ヶ丘公園のように立派で大きな公園があるので、東京などから遊びに来ても、小さい子供が帯広のきれいで広い公園で走り回ることができることだけでも十分な価値がある。

そこに飲食店などの公園に来た人の利便性を図るような施設も、これからの帯広には必要になってくるのではないか。

市外や海外の方を含めたお客さんにも今ある魅力的なものを利用しやすくするための整備をしていくということも計画の中に含めた方が良いと思う。

委員 中央公園で行っている公的なものではないイベントなどでは、使用料はかかっているのか。また、売店などは恒常的なものではなく臨時的に設置するものなのか。

事務局 販売などの行為を行う場合には、帯広市都市公園条例で定められた面積に応じた使用料を払う必要がある。

これまでは常設的な建物の設置が難しかったが、法改正により、例えば、公園の中にカフェなどの収益施設が設置しやすくなっている。

部会長 土日などのイベントがある時に人がたくさん来た時の対応だけでなく、平日の普段人がいない時期も海外を含めた観光客の方が来るような場所が出来たらいいと思う。そういった呼び水となるような内容を、計画の中に入れてたい。

委員 東京ではビルとビルの間など、色々な所にポケットパークがある。

そこで皆さんが昼にテイクアウトした物を食べたり、憩いの場所として使ったりしている。

帯広の中心街もそういうふうになれば良いと思う。中央公園では少し離れているので、夜は怖くて行きにくい。

部会長 民有地についてだが、郊外の林や森などがどんどん減っているのが気になっている。郊外の林や森が減っていってしまうのは、見た目にも良くないし、全体の緑の比率が大きく下がってしまう要因にもなりかねない。防風林や孤立した森など、市街に近い場所も含めて減り過ぎないように文言も入れていきたい。

委員 街路樹について、海外とか都心の町と帯広市の何が違うかという点、木が立派で凄く大きいという点である。手入れの仕方や剪定の仕方について、どうしても強く剪定しなければならない事情や安全面が関わってきていると思うが、どういった基準で剪定を行っているのか。

事務局 街路樹の剪定の頻度は樹種によって違い、年2回の剪定や3、4年に1回の剪定の樹種もある。定期的に小まめに剪定出来れば良いが、予算の関係があり、剪定に入る時は次に枝が伸びてくることも考えてかなり強めに剪定している状況である。

また、植樹帯は道路構造令で1.5メートルと決まっているため、枝の張り具合で簡単に1.5メートルを超えてしまう中、どうしても強剪定せざるを得ない状況にある。

部会長 市民からの苦情があると、なかなか放っておく訳にも行かないが、海外の綺麗な町並みを見ると木が大きいのも確かであり、おそらく、植物の育て方の考え方が根本的に違うのだと思う。

日本の場合はどうしても日本庭園のような手の入ったもののイメージが付いているため、落ち葉や枝が邪魔だと感じてしまう。

これだけ、北海道は町並みがゆったりしているのに、どうしても邪魔になってしまう感覚を持たれる方が多いので、そこのバランスが大事だと思う。

北海道は、木の成長速度や樹種が全く違うので、本州のやり方をそのまま取り入れすぎない方が良い。

委員 観光の話が出たが、国としては観光立国の他にスポーツ立国というものが国策としてある。

帯広市だとマラソンなどがあるので、緑地とマラソンを絡めたり、市民の人達の普段のレクリエーション運動やスポーツの要素を緑地と絡めていったりすることが考えられる。

帯広市の中でもスポーツの予算を取り入れながら上手く公園緑地で活かせられれば、利活用になると思う。

部会長 市民の方もスポーツや健康に興味があり、冬が終わり暖かい時期は短いですが、たくさんの方がマラソンをしている。スポーツや健康増進に絡めていくのは良いかもしれない。

・市民アンケートについて

事務局 市民アンケートは、多様化する市民ニーズや市民の課題意識などを的確に把握し、次期緑の基本計画に反映することを目的に実施するものである。

満20歳以上の帯広市民を対象に、市内7地区の男女別、年齢別比率を適用し、無作為に2,500人を抽出し、郵送により実施する。

アンケートの内容については、今後の事業の方向性を決めていくために必要な項目として【帯広市におけるみどりの役割】に5問、【公園樹木や街路樹について】に4問、【帯広市内の公園につ

いて】に16問、【みどりとの関わりについて】に9問の質問を設定している。

委員 まず、質問が多く、少し重複している部分もある。また、回答する方がどちらに丸つけていいかわからないような設問もあるので、集計するときに困るのではないかと思う。

委員 アンケートに答える側としては、文章が長いことなど、質問内容が掴み難いように感じる。回答の項目をシンプルにする修正が必要と思う。

福祉のことなど、新しい計画のコンセプトとして、市民の方が何を求めているのかということも確認をしていくと思うが、そのあたりが見えにくい。

部会長 全部を盛り込むと長くなるし、長くなると答えてもらえないので、少し文言などを工夫してもらいたい。

また、アンケートの最初のページの文章が長くなってしまい、アンケートをやるかやらないか判断するときに、読まずにやめてしまう可能性が高いと思うので、大事な所に線を引くなど全部読まなくても理解出来るように作成した方が良いと思う。

委員 最終的にグラフなどでどう表現するかを想定してから、問題を作っていた方が良い。

また、物を決める時は市民の方の意見はとても重要であるが、市民の意見を100%聞くのは正解ではない。一般的なことについて民意を抽出した方が良いのではないかと思う。

・その他

委員 北洋銀行跡地の利用について、更地にしておくのはもったいない。そこを公園化してもらえたら飲食店などからテイクアウトしたり、近くの保育園の子供達が公園で遊んだりすることができる。あのような土地をずっと空き地にしておくと、中心市街地にとってはダメージではないか。

また、西3条南9丁目の再開発をしている場所にも、ポケットパークのような公園を作ることはできないか。

事務局 帯広市の土地であればそこに公園を設置するのは可能かもしれないが、新たに中心市街地の地価の高い土地を購入し、公園を設置することは難しい。

西3条南9丁目についてもポケットパークなどを作ることは計画していない。

部会長 世の中の雰囲気としてはそうしたものがあつた方がいいというのは間違いないと思う。できる範囲で柔軟に対応いただきたいと思う。